（様式⑦－1　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心･健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立東三国丘小学校
校長　　向井　　拓

中学校区におけるめざす子ども像
自分の目標と夢をもち、互いの個性を認め合える子

令和７年度　重点目標
何にでもチャレンジ！何度でもチャレンジ！笑顔でチャレンジ！東三国丘っ子！　―考える子　やりぬく子　助け合う子―
①　全員に出番と居場所のある「わかる、できる」授業づくり…自己肯定感を高める
②　全員に出番と居場所のある学級づくり、学校づくり…自己有用感を高める
③　働きやすく「働きがい」のある学校の実現…健康な状態で、安心して働ける
④　保護者・地域と信頼関係を築く…家庭や地域と連携する

「確かな学び」の現状
今年度は、「つながり合い、学び合う子ども」～自分の考えをもち、友だちの話を聴き合う力の育成～をテーマとして取り組むことにした。他者の考えを聴くこと、質問や感想を問い返すことに課題がある。また、自分の考えを持って聴くということもできていない児童も多い。また、語彙力が低い児童が多いので、言葉のたから箱や読書活動など語彙力を増やす取り組みを引き続き継続して行う。

「豊かな心・健やかな体」の現状
自分の良いところや友だちの良いところなどを言える児童が増えてきた。ここ数年の取り組みの効果が徐々に表れてきていると考えられる。わからないことや困った時に、友だちや先生に助けを求めることが恥ずかしい児童が増えてきているので、教室での居場所づくりなどを中心に取り組みたい。運動場が工事中のため、体力向上が懸念されている。職員で話し合い、少しでも体力向上につながる取り組みを推進できたらと考えている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組（●重点とする取組、★中学校区での取組）	判断基準（評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認（～１０月）		達成状況（年度末）自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	学力向上	「つながり合い、学び合う子ども」～自分の考えをもち、友だちの話を聴き合う力の育成～	・自分の考えを表現する手立てとしてタブレットを授業で活用する。	・タブレットの活用に関する児童アンケートの肯定評価を９０％以上にする。	学習観察 児童アンケート 教職員アンケート	随時 年度末	○	１学期末に情報活用チェックシートを活用し、各学年の活用状況を確認した。そのうえで、普段の授業での活用を進めている。	○	児童アンケートでは、自分の思いや考えを表現するためにタブレットを活用しているという項目はどの学年も概ね８０％以上だった。教職員アンケートでは、８５％が肯定評価だった。ただ、新しいタブレットが入ったため、教職員、児童共に知識と技能を習得し、活用していく必要があると考えられる。	○	２年生のテーマの質問の正答率が少し少ないが、客観的に自分を見ることができる児童が多いのかなと感じた。 段階に応じてちょっとずつ内容が難しくなっているように先生方がきちんと考えてくださっていることもよくわかった。先生方も日々研修を行い，子どもたちの指導につなげていただいている環境を大切にしていただきたい。
			●学年の実態に応じた聴く力を育成するための授業を実施する。また、学びのコンパスの考え方も取り入れながら、そのために必要な手立てを共有する。	・各学年で、研修テーマに沿った目標を設定し、１年間実行したことをまとめ、報告する。 ・学年の実態に応じた研修テーマに関してのアンケートで肯定評価を９０％以上にする。	学習観察 児童アンケート 教職員アンケート	随時 年度末	○	５月に各学年で研修テーマに沿った目標（めざす子ども像）とそのための支援・手立てを設定し、報告会を行った。１学期の終わりには、目標に対して取り組んだこと・成果・課題を報告する全体会を開いた。各学期の終わりに全体会の開催を予定している。	○	各学年で、研修テーマに沿った目標を５月に設定し、学期ごとに報告会を行うことで、学年に応じた表現力を育成していくことの成果と課題を意識して１年間取り組むことができた。 アンケートでは、各学年の目標に沿ったアンケート項目で判断した。 １年：９４％　２年：８８％　３年：９３％　４年：９３％ ５年：９５％　６年：９５％であった。 教職員アンケートの肯定評価が９１％であった。	○	
			・授業力向上のため全教職員が公開授業を実施する。	・全教職員が公開授業を実施する。	公開授業 教職員アンケート	随時 年度末	○	年度初めに公開授業の予定を各自立てて、順次授業を行っている。今年度も、若手研修として１校目の教員を中心に主体的研修を行っている。	○	全教職員が、公開授業を行った。 校内研修・主体的研修が教育実践に役立つ内容であったかの教職員アンケートの肯定評価が９２％であった。	○	
	特別支援教育	全員に出番と居場所のある学習づくり	・授業のユニバーサルデザイン化を推進し、子どもが安心して授業に臨める環境を整備する。 ・一人ひとりの子どもの特性に合わせた合理的配慮を推進する。	・各種調査において、「学校に通うのが楽しい」「友だち・先生との関係」の項目で肯定評価平均９０％以上にする。 ・全員に出番と居場所がある学習に関するアンケートの肯定評価を９０％以上にする。	学習観察 児童アンケート 教職員アンケート 保護者アンケート	年度末	○	「特別支援教育の観点」に基づき、児童一人ひとりの特性にあわせた合理的配慮や、学びの場について考えられるような特別支援教育研修を３回実施した。一人ひとりの学びの場の検討を定期的に確認することを目的として校内支援委員会の開催を管理職とともに定期的に行い、学校としての考えを保護者に提案していけるように話し合いを続けている。	○	児童アンケートの学校に通うのが楽しいの項目では８８％、友だち・先生との関係の項目では９３％の肯定的意見があった。また、教職員アンケートの自尊感情を高める取り組みについては、９６％の肯定的意見があった。配慮の必要は児童への対策の項目で９６％、学びの場の検討についての項目で９６％の肯定的意見があった。保護者アンケートでは、８３％の肯定意見があった。	○	非常に高い数値が出ていると感じた。先生方が一人一人を大切にしてくれているのが伝わった。授業参観でも子どもに出番があるように考えてくれている。
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	全員に出番と居場所のある学級づくり	★豊かな心（自己肯定感）を育てるため、学年で統一した取り組みを実施する。 （席替え時に手紙交換など）	・豊かな心（自己肯定感）に関するアンケート肯定評価９０％以上にする。	状況報告 児童アンケート 教職員アンケート	年度末	○	人権教育の取り組みを各学年で実施し、席替え時の手紙交換や友だちのいいところ見つけをするなど、多様性を認め合える集団をめざして取り組んでいる。	○	各学年の実態に応じた取り組みを行った。学期末には教職員でどのような取り組みを行っているか、共通理解を行った。 児童アンケートの結果では、概ね８５％以上の児童が自分には良いところがあると自己評価できていたが、高学年になるに従って、下がっていた。教職員アンケートでは、９６％の肯定意見があった。	○	自己肯定感は徐々に上がってきているのがデータでも表れている。これからも続けて欲しいと思う。
	生徒指導	いじめがおこりにくい学校・学級づくり	●いじめを見逃さない、よりよい仲間づくりのための取り組みを実施する。（月１回の生活アンケート、ｉシステムの活用、子どもの観察、子どもを知る会など）	・いじめに関するアンケートの肯定評価９０％以上にする。	児童アンケート 保護者アンケート	年度末	○	毎月のアンケートに加え、学期に１度細かなアンケート・全員への聴き取りを実施し、いじめの早期発見や迅速な対応に努めている。 登下校時の門での挨拶、校内巡回で児童の様子を観察することができている。また、職員夕礼等で気になる児童の様子やトラブルの内容を報告し、職員全体でこまめに情報共有できている。	○	毎月のアンケートを足掛かりに、いじめの認知、早期発見につながった。トラブルが大きくなる前に職員間で共有し、対応することができた。いじめに関するアンケートは、保護者・児童ともに肯定意見９０％以上であった。 週１回の職員夕礼では、こまめに児童の様子やトラブルなど情報共有し、迅速に対応にあたることができた。	○	いじめへの対応を早めにしてもらえていることがアンケートで結果として表れているので良かった。 何度か学校訪問させてもらう中で、自己有用感を感じる場面が多かった。自分の出番と居場所があるんだなと感じた。
			・たてわり、児童会活動の充実を図る。	・たてわり活動やヒガミクフェスティバルを通して、全児童が集団の一員として活動することの楽しさや喜びを味わい、児童へのアンケート肯定評価９０％以上にする。	児童アンケート	年度末	○	月に１回程度、たてわり活動を実施し、児童が学年の垣根を越えて交流できている。６年生を中心に遊びを計画し、進行することによって、親交を深められていると感じる。１１月にヒガミクフェスティバルの実施を予定している。各クラスで協力して準備を進めている。児童会が率先して挨拶運動や児童会紹介など，学校をよりよくするために活動できている。	○	たてわり活動では、６年を中心に遊びを計画し、実施することができた。６年の総合の学習と連動させて、たてわり活動の内容に長縄を取り入れるなど新たな試みも行った。アンケートでの肯定意見は９０％以上であった。 児童会では、あいさつ活動、募金活動などに取り組んだ。日々の朝礼などでも学校をよりよくするための呼びかけができた。	○	
	健やかな体の育成	子ども自らが、健康に生活することができる能力や態度の育成	・体育科の学習を中心として計画的な体力向上プランを実施する。	・運動に関するアンケートの肯定評価を９０％以上にする。	状況報告 児童アンケート 保護者アンケート	年度末	○	エンジョイエクササイズは朝礼や朝学習で実施している。水泳は６月半ばから９月中まで実施した。２学期よりなわとび検定や持久とびを実施し始めた。	○	水泳は９月まで実施し、なわとび検定や持久とびも実施した。体育の授業内において、運動に親しんだ児童はアンケートより９０％、成長を実感した児童は９０％となり目標値に到達することができた。運動場も広くなり、体を動かす機会をさらに作っていきたい。保護者アンケートでは、７５％の肯定評価があった。	○	運動場の工事も終わり、次年度から通常通りの体育が始まっていくと思う。次年度からの運動・体力の向上の取り組み・進め方がより重要だと感じる。マラソン大会など金岡公園も近いので、取り組みとしてあってもいいのかなと思った。
			・食育、眠育を軸とした健康に関する取り組みを実施する。	・健康に関するアンケートの肯定評価を９０％以上にする。	児童アンケート	年度末	○	全校児童に対して、生活習慣チェック表を実施した。各クラス、担当者より朝学習で食育の話を行っている。	○	睡眠時間に対する認識については肯定的回答が８８％、朝食の必要性の認識については肯定的回答が９５％となった。睡眠時間については重点的に啓発を行う必要がある。一方、朝食に関しては朝学習での食育の話が効果的であったと考えられる。来年度も継続していきたい。	○	
地域協働	地域との連携	ひろがる教育の推進	・堺版コミュニティ・スクールを推進する。	・地域やコーディネーターと連携し、協議する「学校協議会」を年間３回開催し、学校力向上に取り組み、説明責任を果たす。	実践報告	各学期	○	６月に第１回学校協議会を開催。１１月と２月の開催予定を伝え、全３回の予定で取り組んでいる。学習参観の予定も伝えて、普段の授業の様子も可能な限り、見に来ていただくことをお願いした。	○	全３回の予定を計画通り達成した。学習参観など授業の様子も見に来ていただき、学校運営について様々な視点からご意見をもらうことができた。改善・努力できることから取り組んでいきたい。	○	たくさんの意見交換が出席者とできてよかった。アンケートの数値も素晴らしいと思った。

校長より（年度末）
令和７年度の重点目標を達成するため、教職員で児童アンケートの３項目「授業はわかりやすく、勉強ができるようになっている」「先生は私たちの話を聞き、困ったときは助けてくれる」「先生は、ほめたり励ましたりしてくれる」の肯定的回答率を 90%以上にすることを目標に取り組み、達成することができた。令和８年度においても、肯定的に感じる児童を今年度以上に増やせるよう、継続的に上記の教育活動に取り組んでいきたい。

学校関係者評価者から（年度末）
通学路の正しいルートを定期的に見直して、声かけもしてほしい。
聞く力を保育園・こども園でも成長させることを大切にしていきたい。幼保小のつながりも増えてうれしいです。
善悪の判断をきちんと伝える・指導する場面を取り入れて欲しい。しんどいことを乗りこえられる力を身につけて欲しい。